

黒澤幸子さんを偲ぶ（福田泰二）

Yasuji FUKUDA: Remembrance of Dr. Sachiko Kurosawa

177- 東京都練馬区 
 Nerima-ku, Tokyo, 177- JAPAN

黒澤さんがお亡くなりになった（なっていた）ことを金井さんから知らせていただき、大橋さんからは追悼文を書くので写真がほしいという要望を聞いたが、それから何日か経ってお二人から、何人かで追悼記を書く中に私も参加するようにと勧めていただいた。彼女の学問的な業績などキッチンとしたことは他のかたが書かれるに違いないので、別の面を書いてみる。

半世紀あまり前に私が本郷の植物教室に進学したとき、黒澤さんはすでに何年かそこに勤務しておられた。東武東上線の沿線にお住まいだったので、西武池袋線を使って通学する私はときどき地下鉄丸の内線で乗り合わせるようになった。彼女の乗車位置はいつも決まってドアのすぐ脇のやと一人だけいつも立てる所だった。そこで壁を向き、降車駅まで乗客の誰とも顔を合わせないのが

お好きらしかった。私は彼女の存在に気づいても本郷三丁目で降りるまでは声をかけるチャンスがなかった。

このことに象徴されるように、人の前に出ることはお好きでなかったし、写真を撮られることも避けていらっしゃったように思う。ヒマラヤ遠征隊の集合写真などの場合には止むを得ず(?) カメラを直視しておられるが、スナップ撮影をしようとすると思ひ隠れられて、被写体になっていたくのは困難だった。その中で、美貌をよく伝えていると思うものを大橋さんに送っておいた。

昔々東大・理・植にいた人がだんだん減っていくのは仕方がないかも知れないが、黒澤さんのご逝去はやはり淋しい。

（元東京大学理学部植物学教室・助手）

黒澤幸子さんの思い出（大場秀章）

Hideaki OHBA: A Memory of Dr. Sachiko Kurosawa

東京大学総合研究博物館
University Museum, University of Tokyo, 7-3-1, Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo, 113-0033 JAPAN

黒澤幸子さんは東京大学理学部植物学教室の原寛教授の指導のもとで、世界で初めて現地で採集した材料にもとづいてヒマラヤ植物の染色体を研究した先人である。1966年に発表された *Cytological studies on some eastern Himalayan plants and their related species* は記念碑的な論文である。

黒澤さんが研究を進めていた頃は、まだ染色体の観察に必要な根端などの部分を現地で固定して持ち帰ることはできなかった。そのため、ヒマラ

ヤで集めた多量の生きた植物や種子が、東京大学の植物学教室の圃場や温室などに鉢植えされており、夏には暑さを避けて冷涼な軽井沢などに運ぶことも多かった。

私が黒澤さんに初めてお目にかかったのは、論文の指導を受けるためにお訪ねした原寛教授室でだった。1969年だった。部屋の壁側に向いて熱心に顕微鏡をみていた光景が思い浮かぶ。その時、原先生は日本産ベンケイソウ科植物の染色体を観察して、異数性と倍数性を明らかにし、形態との